

春山の末の黒字の文字を... 春山の末の黒字の文字を... 春山の末の黒字の文字を...

雙六の源... 雙六の源... 雙六の源... 雙六の源...

久「すし」... 山法師... 勝「源... 御方々... 此詞健字の心...

源にて恨所... 源にて恨所... 源にて恨所... 源にて恨所...

のにて「同... 又女... 又女... 又女... 又女...

若菜上、三「女三宮時あまたの御中...」

すいせき「源、夕顔、廿七」人は...

すいせき「源、未崎、廿二」も...

すいせき「源、落窪、二」冬の夜...

木刀をぬき目をみはりておの...

上「あまたの御中...」

すいせき「源、宿院」...

すいせき「源、救」...

すいせき「源、宇治拾、三、十六」...

すいせき「源、宇治拾、七、九」...

すいせき「源、後醍醐、二、公相」...

「賀茂保徳女集」...

すいせき「源、宿曜」...

すいせき「源、松の下枝」...

すいせき「源、帯木、廿一」...

すいせき「源、帯木、十七」...

すいせき「源、後、三、和內親王」...

もたく火の下に...

すし

のらみじつをわしかみのこじとみあけたれば風いみじうき入て夏も
いすすし「風雅、賀、匡房」小松原した行水のすししまに千とせの
数を結びつるかな

すししほまねくたま 「夫、九、仲綱」「月やさる岩井の水をすしお

手にすししほまねく玉をこぼる、「同、同、為顯」「石の上は落たる瀧

のかすくはまねく玉をみまじり、「朗詠、納涼、匡房」燕昭王

すししほまねくたま 「源、推木、九」世にこころをいめ給はねは出立いそぎ

をのみまねく玉をこぼる、「同、同、為顯」「狭、四、下、四十

九」此ほど巻はまりはすししほまねく玉をこぼる、「同、同、為顯」侍

増補 雅言集覽卷之下 大尾

いにしへの雅言を今の世の俗言にうつすはいとこにくきわさなるを今は其詞どもを淺茅原つはらに譯明したる
書つかの木のつき〜いてきて初學のともからも大かたはくらふ山くらからす成りて行といにしへ人のいひつ
らねたる語勢緩急輕重によりては細かに意のゆきいたらぬところもあるへければ其つらねたるさまを見て心に
うまく味ひてさるへきなりとわか師榎園翁の常にいへさし給ひしに打あひたるはこの雅言集覽になむあ
りけるされども濱の眞砂のかきりなき千萬の言葉にしあれば猶一ことにても例どもの多かるこそよけれとて石
川ぬしのひろひもらされたるをよはひのかきり年月古き書ともより見出したまひては詞にもあれ歌にもあれ本
書のかしらにも傍にも増補せられたるを其まゝ箱のそこにをさめおかむもあたらくおもひ居をこたひうま
子惟一ぬしおもひおこされてかく全き書となりたるはいとうれしくなむそのなれるゆゑよしははしかきに見え
たる如くなれば今さら何をかいほむされはさきにもし初られたる石川ぬしのよろこひのみか師のみ靈もいか
にうれしくおもひ給むとわかごちの心にもいごめてたくおほえてかくてそ遠長く世にもつたはりて今より後も
の學する人々のふたつなき眞玉じら玉とめてたふとまゝことおもふまに〜釣するあまのうけはりたるわさと
はおもふ物からもたもえあらてうれしさのあまり一ことかきそふるは明治二十年三月春雨のつれ〜花のしつ
くに筆さしぬらじつ〜まのあたりみをしへをうけしむかしをしのふ草今のうついにしのひあまりてかくなむ

七十二翁 小山多平理しるす

明治十六年一月廿七日版權免許
明治二十年七月 日出版落成
明治三十七年三月十日再版印刷
明治三十七年三月十三日再版發行



著作權相續者

中島

弘

北海道札幌區南二條西八丁目七番地

發行者 飯田永夫

東京市神田區北神保町十三番地

發行者 藤森佐五吉

東京市牛込區南町十八番地

發行者 齋藤章達

東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社

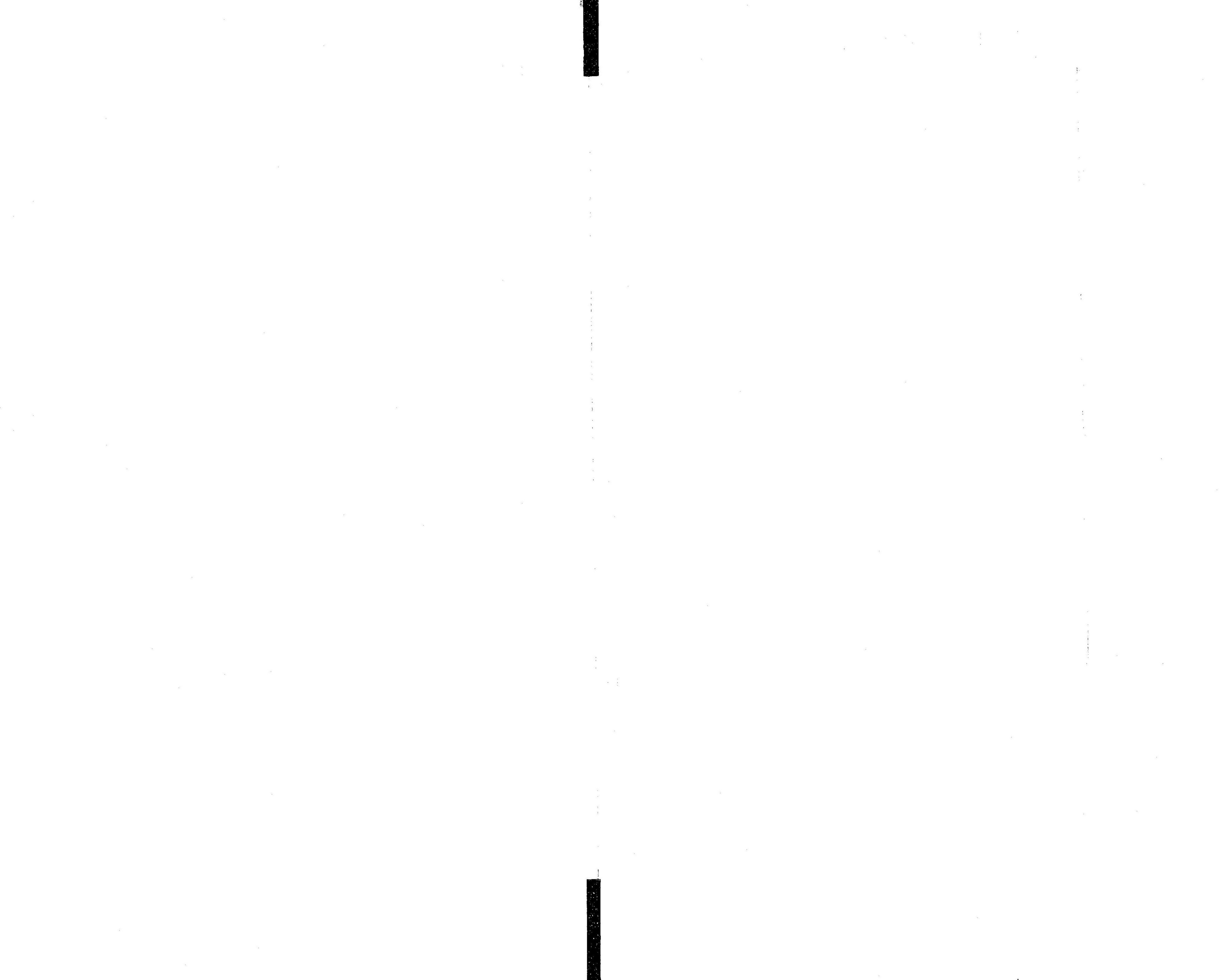
I/2068

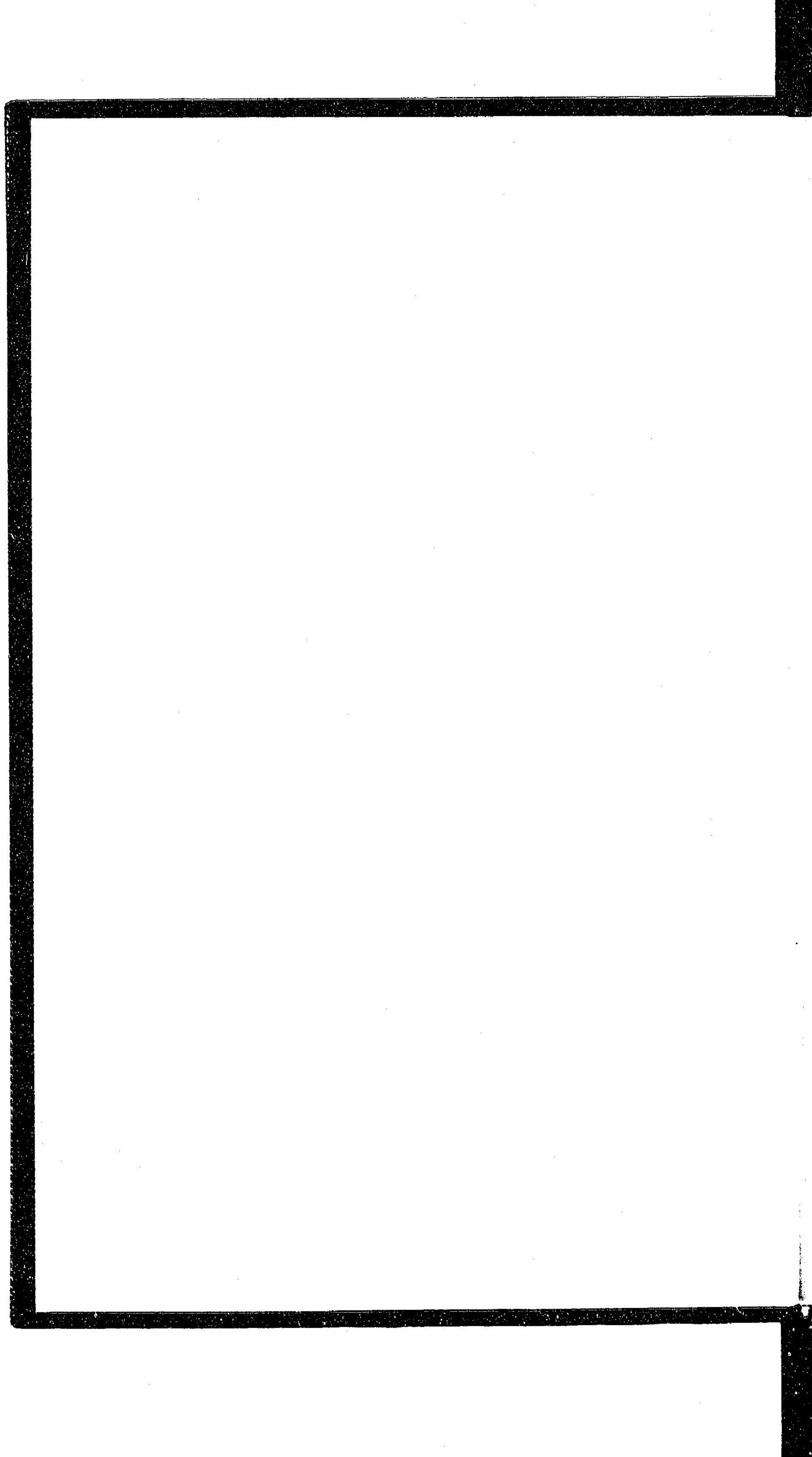
發 行 所
東京市牛込區南町十八番地
廣益圖書株式會社

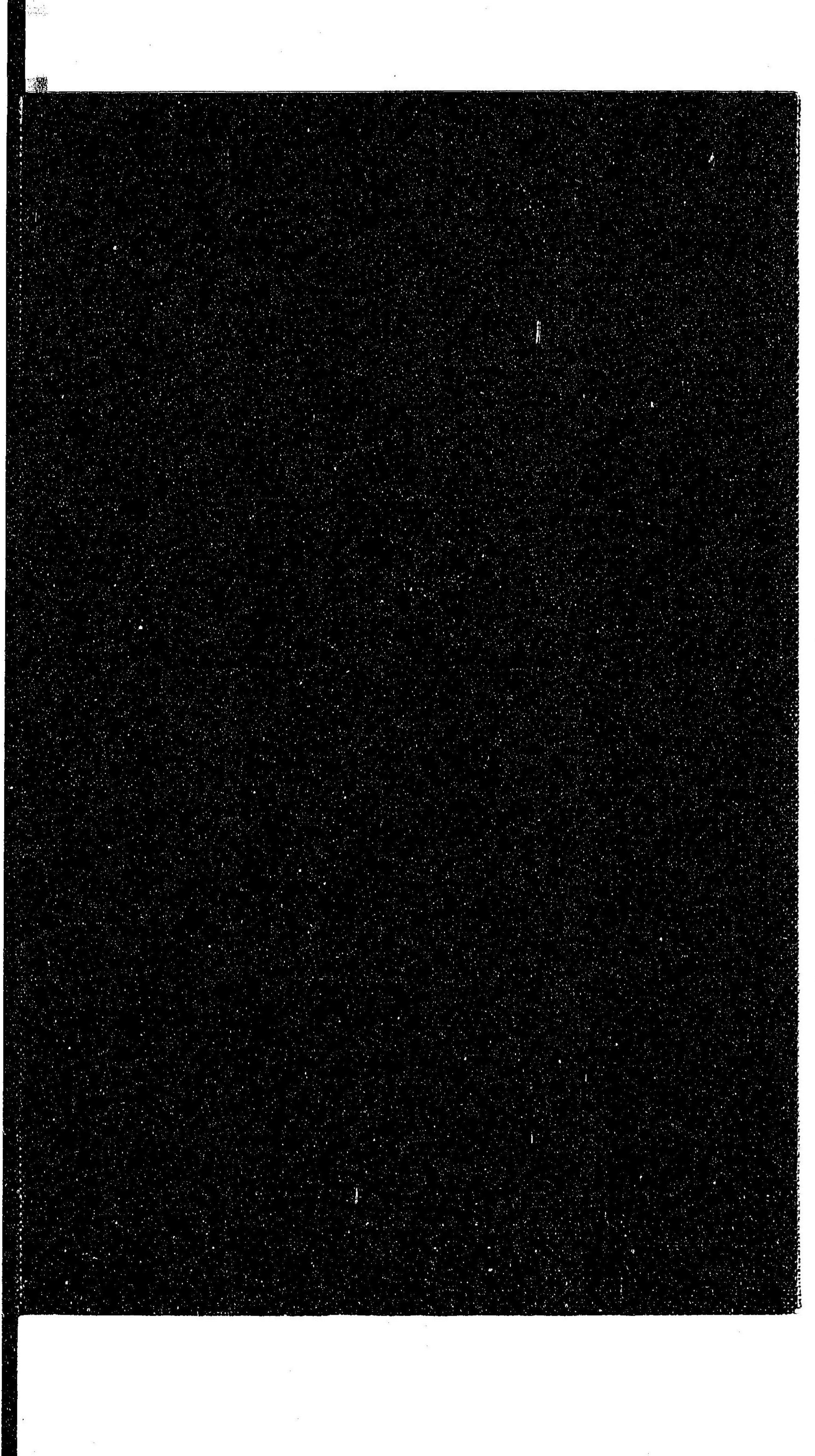
發 行 所
東京市神田區北神保町十三番地飯田永夫方
國語研究會

發 賣 所
東京市神田區錦町一丁目十番地
明治書院

發 賣 所
東京市日本橋區通三丁目六番地
林 平 次 郎







| |
|-------|
| 813.6 |
| L619g |
| N |

Faint vertical text or markings on the left edge of the page.

